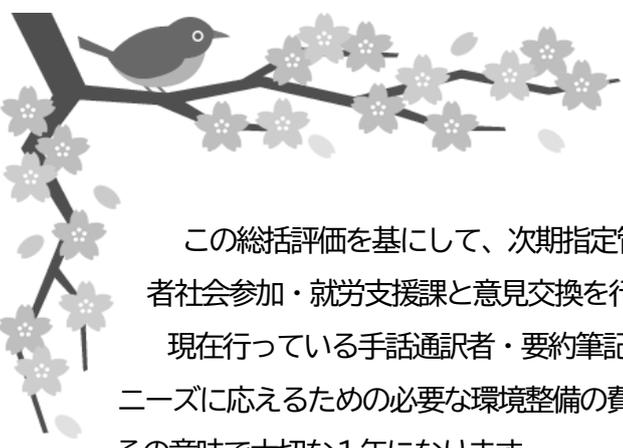


川崎市聴覚障害者情報文化センターだより

新年度のご挨拶



昨年度は当センターの事業に対して、様々なご支援を賜り、ありがとうございました。

今年度は、第4期指定管理の総括評価を行う年です。

この総括評価を基にして、次期指定管理(令和8年度～令和12年度)に向けて、所管課である障害者社会参加・就労支援課と意見交換を行います。

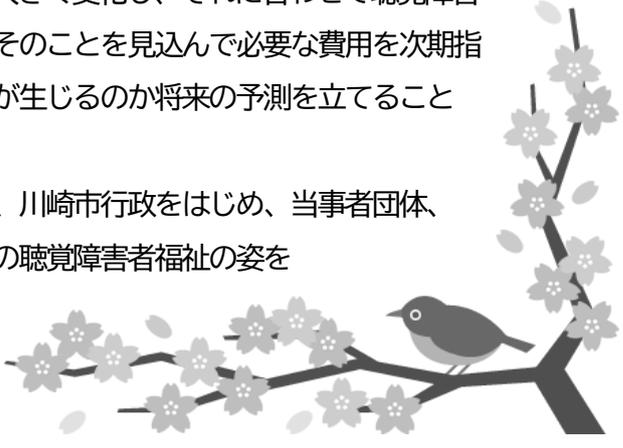
現在行っている手話通訳者・要約筆記者の派遣事業、相談事業等を継続実施すると同時に、新たなニーズに応えるための必要な環境整備の費用を次期指定管理料に盛り込んでいただく必要があります。その意味で大切な1年になります。

今後もICTの急速な進化による生活や仕事等の環境が大きく変化し、それに合わせて聴覚障害者へのアプローチ方法の選択肢が増えていくと思います。そのことを見込んで必要な費用を次期指定管理料に反映させる必要がありますが、どのような変化が生じるのか将来の予測を立てることが難しいと感じます。

先行きが不透明で将来の予測が困難な状態ではありますが、川崎市行政をはじめ、当事者団体、関係団体等の皆さまのお知恵を拝借しながら、5～7年後の聴覚障害者福祉の姿を提示できるよう頑張ってお参りたいと思います。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

施設長 尾上秀夫



センター運営委員会

3月28日(木)にセンター運営委員会を開催しました。

主な内容は令和6年度の事業計画と収支予算についての説明です。

事務局からの説明後、質疑応答と意見交換を行いました。委員の皆さまからは自主製作ビデオの字幕付与や収支予算に関するご質問と、自転車置き場の安全対策や当センター以外で活動する場合の会場確保の難しさなどについて意見交換がなされました。令和6年度は次期指定管理の応募に向けて重要な1年となること、社会福祉法人神奈川聴覚障害者総合福祉協会として新たに県から委託された2つの事業がスタートするなどの情報共有もありました。皆さまからいただいたご意見や情報を参考にして、今後も当センター事業の充実を図っていきたく思います。今後ともよろしくお願いいたします。

聴覚障害者福祉講座

1月23日(火)に、聴覚障害者福祉講座を開催。YouTube生配信と会場のハイブリッド方式で実施しました。

今回のテーマは、「聴覚障害者の消防への通報方法等について学ぼう!」で、講師は川崎市消防局警防部指令課の職員お2人。Net119での通報の際、指令課とのやり取りがどのように行われるかを映像でご説明いただき、参加者にとってもイメージしやすかったのではないかと思います。終了後、その場でNet119の登録をする聴覚障害の方もいました。川崎市内では、救急搬送先の病院に手話通訳者が派遣される緊急派遣制度もあります。聞こえる方にも、この制度について知っていただき、ご存知のない聴覚障害者の方がいらっしゃいましたら、ぜひお伝えいただきたいと思います。



補聴器とコミュニケーションの講座

令和5年度最後の講座を麻生老人福祉センターにて、2月15日(木)から3月7日(木)まで、4回開催しました。

のべ67名の方の参加がありました。その中で全4回の講座すべてに参加し、修了証を渡した方は11名でした。

補聴器に関しては、川崎市総合リハビリテーション推進センター 南部地域支援室の言語聴覚士、真後理英子氏が講師を務めました。補聴器の基礎知識についての講義に対して、質問がたくさん寄せられました。

最終日の聞こえを助ける機器の案内は、有限会社千里福祉情報センターの水谷裕氏が機器を沢山持ち込んで説明してくれました。説明の合間に、実際の機器を回し、手に取って体験することもできました。休憩時間にも機器の見学と質問する方でいっぱいでした。

麻生老人福祉センターは映画が投影できるくらい大きなスクリーンがあります。そこに要約筆記の全体投影をするので、参加者の皆さまはよく読んで理解されていました。



今回ヒアリンググループの受信器の貸し出しを希望される方が多く、できるだけよい環境で講座を受けようとされる姿勢が目立ちました。

受付や体験談、団体活動紹介などを、特定非営利活動法人川崎市中途失聴・難聴者協会のスタッフにご協力いただきました。

今年度は、高津区、多摩区、中原区で開催の予定です。

備えるフェスタ2024出展

2月17日(土)、ラゾーナ川崎プラザにて開催された「備えるフェスタ2024」に出展しました。このイベントは川崎市が、市民の皆さまに、さまざまな体験や参加を通じて、ご自身に合わせた災害への備えを知っていただくきっかけとするため毎年開催しているもので、今年も川崎市聴覚障害者災害対策委員会が参加しました。当日は、来場者に災害発生時に聴覚障害者が困ることを周知し、手話体験・筆談体験、遠隔手話通訳・音声認識のデモンストレーションを行いました。また今年も、グランドステージにて、当委員会の取り組み等を紹介する時間をいただきました。

今年のテーマは「フェーズフリー」。平時と有事の境界をなくし、「平時の備えや活動が災害時にも生かされる」・「普段使っているものが災害時にも活用できる」といった新たな概念です。備えないけど備えちゃう「フェーズフリー」の視点を取り入れ、今後もこのような取り組みを継続していきたいと思っております。



ろう者・難聴者のための健康学習会

3月14日(木)健康学習会を開催しました。18名が参加しました。

これまでで初となるテーマは「終末期における医療・介護について ~自分らしい最期(さいご)を迎えるために今から考えてみよう~」

講師は「聴覚障害を持つ医療従事者の会」の竹本真悟氏。介護系の企業の経営に携わってきたそうです。



終末期とは何か、終末期の医療・介護について、会場への問いかけをしながら進めていきました。延命治療、褥瘡(じょくそう)など、普段聞きなれない用語などの説明を交えて、終末期の医療・介護の知識を得ることが出来ました。「前もって自分が決める」ことが大事ということがわかりました。今は元気だから、まだ病気になっていないから、ではなく元気なとき、意識がはっきりし

ているときだからこそその備えが大切なのですね。

後半は「人生会議」という話になりました。自分が終末期に受けるケアや支援について、本人と家族が考えなければならないことについて、川崎フロンターレ・花葬提供による、川崎市の「未来あんしんサポートノート」※右写真 を使って参加者が実際に記入してみるというワークも行いました。「介護が必要になったときの希望」「介護が必要になったときに介護をお願いしたい人」「介護費用」など、ノートの一部の箇所を記入することで自分の今後をより実感できたと思います。

今後も情報がなかなか入りにくい、ろう者・難聴者に役立つ、健康やよりよい人生が送れる学習会を積み重ねていきたいと思っております。



©KAWASAKI FRONTALE

音声認識の企画

3月26日(火) 令和5年度第2回 音声認識技術を活用した情報保障についての検討のための企画「音声認識技術を活用した情報保障-誤変換修正のデモ-」を開催しました。難聴者、要約筆記者などが14名参加しました。

当日は春の嵐で大雨でした。筑波技術大学の萩原彩子先生を中心に、安啓一先生、井上正之先生、小林彰夫先生のご協力で企画を進めていただきました。

まず音声認識を導入する前に考えるべきことについての講義から始まりました。

1対1のコミュニケーション場面(お店、窓口)、集団でのコミュニケーション場面(打ち合わせ等)、などが考えられますが、今日は講演形式の場面(授業や講演会等)に絞って学びました。

前回は「リスピーク」がテーマでしたが、音声の入力方法についておさらいもしました。音声認識を取り入れる場面で、聴覚障害者の発言を保障するため、ろう者・難聴者の発言をどのように反映するか、その方法を前もって決めておくことが大切とのことでした。その上で、①修正なし・辞書登録なし、②修正あり・辞書登録なし、③修正あり・辞書登録ありの3パターンを比較、修正と辞書登録が有効であることを実感しました。



その後実際の動画を流し、UDトークによる音声認識と、実際の修正している画面を見ながらどのように表示されるかのデモを見ました。表示される文字が、表示用の黒、修正中の黄色、修正後の青と3色で表示されたため、少し混乱したという意見もありました。間違った単語の修正ではなく、文章だけでも理解できるようになっているか?を確認しながら、必要に応じて修正や補足を加えるということがわかりました。普段の要約筆記による情報保障にも

つながる内容でした。また情報保障の利用者も、協力することの大切さ、「発言が重ならないようにする」「名前を名乗る」など日頃の場面にも大切な振り返りもできたと思います。

音声認識技術を活用した情報保障の検討は、3年目となりました。今後も引き続き、検討を続けて行きますので、皆様のご協力をお願いします。

電光掲示板を新しくしました

通常時は日時を表示させていますが、緊急時はフラッシュランプが点滅し、目で見て分かる情報を即座に提供します。

また、毎日閉館時間が近づく閉館時間までの時間が表示されます。

電光掲示板の故障中、また工事期間中のご協力ありがとうございました。



< 通常時 >



< 緊急時(火災の場合) >

【手話】養成講座

【手話奉仕員養成講座】

2月28日(水)、手話奉仕員養成講座(通年コース)が閉講しました。手話通訳者を目指し初めて学習を始める方が対象の本講座。入門編・基礎編と連続して9ヶ月間の受講でした。手話と板書で進められる授業に不安な様子の皆さんでしたが、教室からはよく笑い声が聞こえ、毎週楽しく刺激的な2時間になったようです。通訳者養成講座受講に向けてはいくつかの選択肢があり、悩まれている様子も見受けられました。ご自身のペースで納得の道を進んでいただきたいです。

そして、3月16日(土)には、奉仕員養成講座(単発コース)〈入門編〉が無事閉講しました。手話やろう者に対する印象が大きく変わった5ヵ月間だったのではないのでしょうか。手話の世界はさらに奥深く、おもしろい発見がまだまだたくさん待っています。5月から始まる奉仕員養成講座(単発コース)〈基礎編〉や、各地域の手話サークルなどで、今後も学びを深めていただければ幸いです。

各コースの講師をご担当いただいた特定非営利活動法人川崎市ろう者協会、川崎市登録手話通訳者団の皆さま、ありがとうございました。



【手話通訳者養成講座】

3月9日(土)に手話通訳者養成講座〈通訳I〉が閉講しました。これまでの奉仕員養成講座から大きくレベルアップし、自宅での課題にも多く取り組んでいただきました。手話と日本語という2言語の違い、ろう者の視点・思考への理解を深め、「通訳」について考える講座になったかと思えます。苦しい胸の内を伺うこともありましたが、7月から少しずつ変化された皆さんは閉講日を清々しく迎えられたように見えました。皆さんが感じている「不安な気持ち」が通訳者の大切な力を支えると思います。令和6年度の手話通訳者養成講座〈通訳II〉は新カリキュラムで実施。さらなるステップアップにぜひチャレンジしていただきたいと思えます。

【手話通訳者】現任研修

今年度は、講師として小野寺善子さんをお招きし、「等価の意味を考えよう」をテーマに3回連続で実技研修を行いました。間に当センター職員が担当する回を挟みながら、通訳の対象者であるろう者、聴者それぞれに正しいメッセージを伝えられているかを登録者のみなさんと一緒に考えました。

日ごろ私たちが担当している通訳は一人で担う現場が多く、自身が行った翻訳や行為を振り返り、そして検証できる機会はそう多くはありません。そこで今回の研修では、実際にあった内容を取り入れた派遣現場を再現。事前に用意した再現映像を確認しながら、元発話のメッセージを確認し、等価な翻訳をグループで話し合ってもらいました。その後考えた翻訳文を一人ずつ発表。講師の小野寺さんからコメントをいただく形で進行了しました。

最終回はスタイルを変えて実施。少人数のグループに分かれて話し合いをしたあと、実際に通訳現場を会場に作り生で通訳を行いました。会場正面には、ろう者、通訳者と聴者、それぞれの画面を並べて投影。参加者たちは、ライブ映像でろう者の反応を細かく観察、検証することができました。

通訳現場における情報提供やコミュニケーションの環境整備、そして意思決定の支援すべてが、正しい翻訳があって成り立つものだと考えています。研修を通して、自分が現場で行っている通訳は、果たしてどのようろう者、聴者に届いているのか。反応を丁寧に見ていくことが大切だと実感できました。

今年度も、手話や通訳について、考え見つめる機会となるような研修を行っていただければと思っています。

【要約筆記者】現任研修

令和5年度登録要約筆記者現任研修（センター担当）を実施しました。
ウェビナー（Zoom）形式1回、センター研修室参集1回にて開催しました。

【要約筆記者にとっての日本語～助詞のチカラ～】

1月17日（水）、特定非営利活動法人全国要約筆記問題研究会 前理事長 三宅初穂氏より「助詞とは」、「要約筆記者にとっての助詞」についてウェビナー形式でご講義いただきました。要約筆記では「〇〇へ。」「〇〇で。」などで文を完結する「助詞止め」を用いることがあります。（助詞止めで文を完結して次の話を書き始める・入力し始めることで同時性を保つようにします。）要約筆記に欠かせない助詞の奥深さやNGな助詞止めの例など、2時間の講義はあっという間に終了しました。三宅講師から「助詞は調味料と同じ。まずは要約筆記の基本どおりに経験を積んで、さじ加減を覚えていくもの。」というアドバイスは要約筆記者にとって大きなエールになったと思います。今回の講義で学んだことをぜひ現場で活かしていただきたいと思います。

【遠隔要約筆記体験】

2月28日（水）「遠隔要約筆記体験」をテーマに要約筆記者現任研修を実施しました。
登録要約筆記者の皆さんとオブザーバー参加の特定非営利活動法人川崎市中途失聴・難聴者協会（以下：川難聴）の皆さんに「手話通訳による遠隔機器コミュニケーション支援事業」を説明した後、遠隔手話通訳と同じ「プラスヴォイス遠隔システム」で行う要約筆記を手書きとパソコンに分かれて体験していただきました。受信ブースでの話が盛り上がった反面、通訳者ブースでは音が割れて聞こえにくい面もありましたが、参加者全身体験することができ、「楽しかった」「とても有意義だった」と感想が寄せられました。実用性の面ではまだまだ課題が多いようにも思われますが中途失聴・難聴者の皆さん、登録要約筆記者の皆さんと一緒にセンターもシステムに慣れることがとても重要だと感じました。皆さんお疲れさまでした。



手話通訳者全国統一試験結果報告

昨年12月に実施した2023（令和5）年度手話通訳者全国統一試験の結果、2名の方が合格されました。受験者の皆さん、本当におつかれさまでした。また、養成講座にご協力をいただきました、特定非営利活動法人川崎市ろう者協会、川崎市登録手話通訳者団の皆さま、ありがとうございました。

実習生受け入れ

1月10日～18日まで、国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科の学生（1名）の実習を行いました。センターの事業の説明や体験に加え、各団体の活動や会議、講座を見学することで、「現場」について知り、考える機会になったのではないかと思います。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。



全国統一要約筆記者認定試験結果報告

2月18日(日)に、全国統一要約筆記者認定試験を実施しました。



手書き7名、パソコン3名の合計10名の方が受験され、手書き3人、パソコン1人の合格となりました。

要約筆記者養成講座は84時間のカリキュラムで、約1年に渡る長丁場です。講座を修了した方々が、試験に臨みます。試験なので合否という結果が出ますが、講座の受講を通して、中途失聴・難聴者への理解を深めていただいたことと思います。合格された方には、情報保障者として、聴覚障害者福祉の一翼を担っていただくこととなります。中途失聴・難聴者の生活に欠かせない情報保障。緊張感を持ちつつも、難聴者との交流を楽しみながら活動していただけたらと思います。

センターまつり予告

5月26日(日)10時~15時、第17回川崎市聴覚障害者情報文化センターまつりを開催します!

今年のテーマは「ろう者、中途失聴・難聴者と話せる!学べる!」。

手話体験や要約筆記体験、東京2025デフリンピックPR、電話リレーサービス体験、子ども向け企画、聞こえ・薬剤師・弁護士相談など多くの企画をご用意しています。

また、当センター1階の井田老人いこいの家にて、以下企画を予定していますので是非ご覧ください。

デフ・パペットシアター・ひとみ
パフォーマンス
10:30~・12:30~
各回30分

特定非営利活動法人川崎市ろう者協会
手話で絵本の読み聞かせ
11:30~ 13:30~
各回10分

また、今年は先着100名にわたあめをプレゼント予定です。

参加費は無料、どなたでもご参加いただけます。

皆さまのご来場をお待ちしています!

市内で唯一の聴覚障害者施設 手話通訳者・要約筆記者派遣事業所

ろう者、中途失聴・難聴者と話せる!学べる!

第17回
川崎市聴覚障害者
情報文化センター
まつり

参加無料!
どなたでも
大歓迎!

話せる!学べる!
・手話体験
・要約筆記体験
・東京2025デフリンピックPR
・聴覚障害者福祉機器展
(協力/有限会社千里福祉情報センター)

体験できる!
・電話リレーサービス体験・登録支援
(協力/一般財団法人日本財団電話リレーサービス)
・遠隔手話通訳、オンライン相談体験

買える!遊べる!
・バザー・書籍販売
・子ども向け企画
(協力/寺子屋デフ☆キッズボックス)

相談できる!
・聞こえの相談
・ろうの薬剤師相談
(薬・医療・健康関係)
・ろうの弁護士相談(予定)

展示
・災害対策展示
・目で聴くテレビ
・ろう高齢者ミニデフサービス なののわ展示
・協力団体、センターのパネル展示

わたあめ
プレゼント!
先着100名

会場 川崎市聴覚障害者情報文化センター
井田老人いこいの家
川崎市中区井田三舞町14-16
東急東横線 元住吉駅より 徒歩約10分
川崎市聴覚障害者情報文化センターは
井田老人いこいの家の2階です

デフ・パペットシアター・ひとみ
パフォーマンス
★10:30~ ★12:30~
各回30分

日本で唯一、ろう者(耳が聞こえない人)と
聴者(聞こえる人)が、協力して公演活動を行
っているプロの人形劇団です

川崎市ろう者協会
手話で絵本の読み聞かせ
★11:30~ ★13:30~
各回10分

◆主催/社会福祉法人神奈川聴覚障害者総合福祉協会 川崎市聴覚障害者情報文化センター
TEL:044-798-8800 FAX:044-798-8805
メール:kawa-kikaku@kanagawa-wad.jp ホームページはこちらから

◆協力/特定非営利活動法人川崎市ろう者協会、特定非営利活動法人川崎市中途失聴・難聴者協会
川崎市登録手話通訳者団、川崎市登録要約筆記者協会

ビデオ通信 89



●貸出ベスト5
(2024年1月1日から3月31日)

| 順位 | ジャンル別 | 本数 |
|----|---------|-----|
| 1位 | センター制作分 | 30本 |
| 2位 | 映画・ドラマ | 13本 |
| 3位 | 趣味・教養 | 7本 |
| 4位 | 教育・教材 | 4本 |
| 4位 | 手話学習 | 4本 |

●データ紹介

| | 10月 | 11月 | 12月 | 合計 |
|--------|-----|-----|-----|-------|
| 来所者数 | 861 | 877 | 819 | 2,557 |
| ビデオ貸出数 | 14 | 14 | 32 | 60 |

★ こちらもご活用ください ★

ホームページ

<https://www.joubun.net/>

Twitter(ツイッター)

<https://twitter.com/DKawasakiJoubun>

公式 LINE ID

@361knuro



ホームページ
QRコード



QRコードを読み取ると
友だち追加ができます

<休館日のお知らせ>

休館日は毎週月曜日と祝祭日です。月曜日が祝祭日の場合は、翌日の火曜日も休みとなります。(■休館日)

2024年4月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | | | | |

2024年5月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 |
| 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
| 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | |

2024年6月

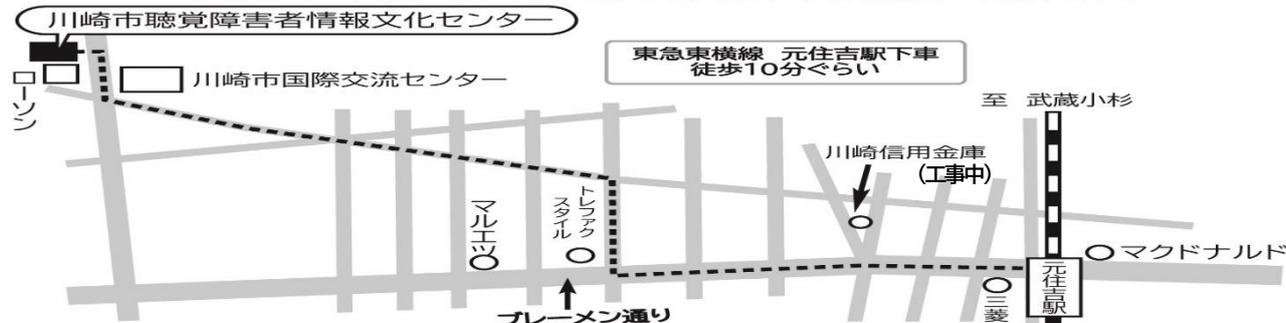
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

6月2日全館清掃(休館)

2024年7月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 |
| 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 31 | | | |

※当センターに駐車場はありませんので、公共の交通機関をご利用下さい。



川崎市聴覚障害者情報文化センター

代表 (TEL) 044-798-8800 (FAX) 044-798-8805

〒211-0037 川崎市中原区井田三舞町14-16

(交通機関 / 東急東横線 元住吉駅下車徒歩10分)

(部屋の貸出等管理) (TEL) 044-798-8800 (FAX) 044-798-8805
 (ろうあ者相談・難聴者相談) (TEL) 044-798-8800 (FAX) 044-798-8804
 (手話通訳・要約筆記派遣) (TEL) 044-798-8800 (FAX) 044-798-8803